

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「伝えたいことを整理して、報告しよう」 教材名「みんなが使いやすいデザイン」

2 単元の目標

情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。（〔知識及び技能〕(2)イ）

目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（B(1)ア）

使いやすさを調べる目的を定め、集めた情報を分類して報告の中心を選ぶ学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ）	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）	①使いやすさを調べる目的を定め、集めた情報を分類して報告の中心を選ぶ学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

使いやすさを調べる目的を定め、集めた情報を分類して報告の中心を選ぶ。この教材では、目的・利用場面・根拠の分類表と報告文を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

当事者の立場を勝手に代弁せず、確認できた仕様や使い方を資料と区別して記す。調査で個人情報を集めない。想定する難しさは、体験していない人の困難や効果を断定する。評価では、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしているかを、目的・利用場面・根拠の分類表と報告文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 単元の終わりに残す記録を確かめ、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～4	○身近な設備や表示を、利用する人と働きの観点で調べる。 必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）
第3次	5～7 （本時）	○身近な設備や表示を、利用する人と働きの観点で調べる。 観察・資料・感想を分け、同じ目的の工夫を分類する。報告する中心を選び、根拠が不足する所を再確認する。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	8	○読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (5/8)

(1) 本時の目標

目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(B(1)ア)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「だれにとっての使いやすさを、どの資料や事実で説明しますか」 【めあて】使いやすさを調べる目的を定め、集めた情報を分類して報告の中心を選ぶ。 〈予想される児童の反応〉 ・見た目だけでは使いやすい理由が説明できない。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「だれにとっての使いやすさを、どの資料や事実で説明しますか」 身近な設備や表示を、利用する人と働きの観点で調べる。 観察・資料・感想を分け、同じ目的の工夫を分類する。報告する中心を選び、根拠が不足する所を再確認する。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・見た目だけでは使いやすい理由が説明できない。 ・人によって使う条件が違う。	当事者の立場を勝手に代弁せず、確認できた仕様や使い方を資料と区別して記す。調査で個人情報を集めない。 想定する難しさ：体験していない人の困難や効果を断定する。 評価では、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしているかを、目的・利用場面・根拠の分類表と報告文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。 (発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 目的・利用場面・根拠の分類表と報告文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・人によって使う条件が違う。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「だれにとっての使いやすさを、どの資料や事実で説明しますか」。中央は、目的・利用場面・根拠の分類表と報告文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

